

NSTは1970年AmericaのChicagoに集結した代謝・栄養学専門の医師・栄養士・薬剤師らが専門的な栄養管理チームの必要性を唱えて誕生し、その発展の背景には医療の合理化を図りつつも患者満足度を高められるよう病院サービスの向上に努め、結果的に医療コストの削減を目指すという役割も担っています。

近年、医療現場での栄養管理の重要性が認知され、2010年の診療報酬改定では急性期病床において、2012年からは慢性期病床においても栄養障害を生じている患者または栄養障害を生じるリスクの高い患者に対して、医師、看護師、薬剤師及び管理栄養士などからなるチームを編成し、栄養状態改善の取り組みが行われた場合の評価の新設「栄養サポートチーム加算」が導入されました。

当院NSTは2004年6月に設立された全科型NSTで、supervisor・chairman・director各1名（副院長、センター長、内科部長）とassistant directors10数名（各科部長・副部長、看護師長、栄養士等）、その他members10数名（薬剤師・検査技師・理学療法士・ケースワーカー・事務職等）で構成されています。2004年に日本静脈経腸栄養学会から、2006年には日本栄養療法推進協会から、それぞれNST稼働施設に認定されています。当院では「輪になるつながる栄養サポート」をモットーにNST活動を続けています。

さらに2011年からは、NST介入患者が退院後も適切な栄養管理がなされるように『NSTサマリー』を作成し、退院時には施設や在宅で介護に関わる方々への情報提供を継続しています（2018

年度は173例）。また2014年より「歯科医師連携加算」が導入され、2018年より歯科口腔外科医師もNSTに加わって口腔ケアの観点からも摂食嚥下に関するカンファレンスが行われています。

2008年より院内スタッフへの栄養管理に関する啓蒙活動として、1年間に開催されるNST勉強会や研修会などに規定回数以上参加できたもの限り、院内オリジナルNSTバッジを進呈し（2018年度は20名取得）、またNSTに関係する各学会・研究会への積極的な参加・発表を心がけています（2018年度は学会発表1例、講演1題）。将来的な病診連携下での院外型NSTへの発展も目指し、院外型NST活動の一環として病診連携施設の方々を招待し、定期的に岐阜南NST研究会（年2回）、またNST情報交換会（年1回）を開催しています。

毎月1回NST委員会と院内研修会を開催し、すべての新規入院患者を対象に栄養スクリーニング施行（入院中の新規対象についてのコンサルテーションは随時受付）、対象患者へは毎週2回NST回診（火曜：南館、水曜：北館）を行い栄養管理に関して提言しています（2018年度の新規NST介入患者は238名で、男性117名／女性121名。診療科別では内科163名／外科18名／脳外科16名／整形外科14名等）。2017年6月よりNST回診対象の全患者についてカンファレンスを行った後、ベッドサイド回診を行っています。事前カンファレンスシートを用いることにより、各職種スタッフの負担軽減を図るとともに効率のよい回診を目指しています。

〔文責：山本奈央子〕